

日本労働年鑑 第52集 1982年版
The Labour Year Book of Japan 1982

第二部 労働運動

XIII 政治的大衆行動と平和運動

1 第五二回メーデー

第五二回メーデーは、中央統一メーデーの五〇万人(主催者調べ、以下同じ)をはじめ、全国の一五八会場に約六五〇万人が参加してひらかれた。米原潜の日昇丸あて逃げ事件、高まる改憲論議、教科書の見直し・改定の進行、有事立法の策定など、安保条約の強化と政治の右寄り化が顕著となる一方、実質賃金の低下に象徴される生活悪化が際立つなかでひらかれた八一年メーデーは、スローガンに、憲法改悪阻止、軍事より福祉優先、障害者の社会参加の実現、高齢者の雇用と生活の保障、公正な社会の確立などをかかげた。

中央メーデーでは、総評の榎枝議長が、「軍国主義、ファシズムの台頭を阻止し、憲法を擁護し、平和と民主主義を守る新たな闘いの第一歩にしよう」と開会のあいさつをおこない、つづいて議長団を代表して、豎山中立労連議長は、八一年春闘について「インフレの責任を賃上げに転嫁し、先行き不安を口実とする政府・資本の賃金抑制政策を打破するに足る成果を獲得したとはいえない」と中間総括。また「労働戦線統一の基本構想」を示す「統一推進会」の動きについて、「最終的な合意形成の段階を迎えつつあり、力と政策を発揮できる組織態勢を確立するなかから、歴史的な統一の実現を果たそう」と述べた。宇佐美同盟会長は、主催者を代表して「世界には、メーデーの集会すらできない国が多数ある。平和と自由・団結と連帯のすばらしさをかみしめたい」と語った。

来賓として各政党代表が祝辞を述べたが、その中で社会党は「鈴木内閣は軍事大国化、軍国主義教育の復活を図るなど暗黒政治の道を進もうとしている」と指摘し、労働者の統一と団結をよびかけたほか、公明党は「現憲法を堅持して福祉社会の実現を」、民社党は「行政機構を改革して増税をやめさせよう」、共産党は「安保廃棄、非同盟・中立の旗を掲げよう」、社民連は「憲法と平和を守りぬくための力を合わせるときだ」とそれぞれのよびかけをおこなった。ひきつづき祝電の紹介などがあり、最後に「メーデー宣言」を採択したあと、参加者は六コースに分かれてデモ行進をおこなった。

【第五二回メーデー宣言(抜粋)】

きびしい内外情勢のもとで、われわれは、一九八一年のメーデーをむかえた。

昨年の衆参同時選挙において議席の安定多数を制した自民党は、鈴木内閣の発足とともに、一貫して反動的・反国民的政策をとりつづけている。まず、政府・自民党責任者の相次ぐ改憲発言、憲法改悪を意図する八年ぶりの憲法調査会の再開、司法の反動化など政治路線の危険な傾向を指摘しなければならない。

さらに、公共料金の引上げを中心とする高物価政策、福祉の後退と高負担政策、財政再建に名をかりた大増税路線など、労働者、国民の要求を無視し、われわれにのみ犠牲を強要する独善的な政策をとっている。物価は高騰し、雇用情勢は依然悪化しつづけ、中小企業の倒産も激化しており、いままた景気悪化の局面をむかえている。労働

者・国民の生活は、消費水準の低下のもとにあつて窮迫感におちいつている。

われわれは低成長下、インフレと失業の共存、急速な高齢化社会の到来、財政危機、国際経済の緊張激化という状況のもとで国民生活優先の公正と連帯に基づく福祉型経済—社会の実現を目指している。

こうした八〇年代のこんにち、われわれは、多くの課題に対して、新たな国民の「連帯と改革」のエネルギーの結集をはかり、大衆運動、国民運動を構築していかなければならない。そして、この運動の中枢を担う主体的任務がわれわれ労働組合に課せられている。いまわれわれが、共通の課題としてその実現をめざしている「労働戦線統一」の壮大なる事業も、このための運動主体を確立していく上で重要な意義をもっている。

今次メーデーが、「国際障害者年」に開催されていることに留意すべきであり、われわれは、「障害を持つ人々の社会への『完全参加と平和』という目標の実現」に努める。

第五二回メーデーに結集したすべての労働者と労働組合は、このメーデーにおける巨大な団結をもとに、「メーデースローガン」と「行動目標」をこれからの運動の「環」とし、広範な国民諸階層と連携し、当面の要求を実現して生活基盤を確立しつつ未来に対する選択と、政治を決定する力を築きあげるために奮闘することをここに宣言する。

一九八一年五月一日
第五二回中央メーデー大会

日本労働年鑑 第52集 1982年版

発行 1981年11月30日

編著 法政大学大原社会問題研究所

発行所 労働旬報社

2001年9月18日公開開始

■ ←前のページ 日本労働年鑑 1982年版(第52集)【目次】 次のページ → ■
日本労働年鑑【総合案内】

法政大学大原社会問題研究所(<http://oisr.org>)
